

町屋百人衆

津市北部、町屋海岸近くに住む人々により、地域活性化のために結成された「町屋百人衆」。町屋海岸の清掃を定期的に行い、祭りを盛り上げるなど幅広く活動し、地域ぐるみでの取り組みは、平成18(2006)年に「中部の未来創造大賞」住民部門優秀賞、平成27(2015)年に「緑綬褒章」受章など数々の表彰で評価されています。



「町屋巨大龍踊り」※

お問い合わせ

「町屋百人衆」
津市栗真町屋町
TEL090-3560-6342
(会長 坂野 大徹さん)

「町屋百人衆」は、「ちよつと無理をして、自分たちのまちを誇れるまちにしませんか」を合言葉に、平成7(1995)年、栗真町屋地区の人々を中心に結成されました。現在の会員数は59人。8代目会長の坂野さんたちにお話を伺いました。

——活動は今年で25年目。結成のきっかけを教えてください。

坂野：もともとは栗真小学校PTAなど、保護者同士のつながりからはじまった組織です。結成翌年から氏神の千王神社の例祭で「町屋巨大龍踊り」を披露していますが、かつての祭りは夜店が少し出る程度。隣町には「やぶねり」という賑やかな行事があったので、みんなが

参加できることで盛り上げたいと、「龍踊り」をすることになったんです。

大河内 忠幸：初代の龍は竹製の骨組みに布地をかぶせて製作し、2代目・3代目は激しい踊りに耐えられるよう、骨組みをアルミフレームに変え、布もテント素材に。全長55メートルに電飾を施しています。大掛かりな構造ですが会員には電気や土木、建築の技術者などいろいろな職業の人がいるのでそれぞれの得意分野でカバーしています。担ぎ手の交代や裏方を含めると150人ぐらいが必要で、ちびっこ龍もあり、三世代で参加している家族もあります。龍を担ぐために祭りに合わせて帰省する住民もいます。

ミが、年々少なくなっています。

地域の人の環境マインドが向上し、海岸にこられる方々のマナーの意識が高まってきているのではないかと思います。

——ほかにごういった活動がありますか。

加藤：秋のふれあい運動会での、栗真鍋の振る舞いが恒例となっています。地元産の野菜などを使って、約400人分の豚汁を作るんです。今、農業者が減り、耕作放棄地も目立ってきているので、そこは別の組織が整備に取り組んでいます。

大晦日は神社で餅を搗いて、年越しそ

秋の「津まつり」にも呼んでいただき、「高虎太鼓」や「しゃご馬」など伝統的な郷土芸能に混じって、参加しています。

——町屋海岸の清掃は参加者が毎回50人を超えるほど大規模にやっているのですね。

大河内 義孝：今は堤防が完成しましたが、以前だと砂浜に車が進入することができたので、不法投棄やバーベキューのゴミなど一部でマナーの悪さが目立っていました。ウミガメが産卵に来る浜でもあり、幼い頃に遊んだ素足で走れる町屋海岸に戻そうと1月を除く奇数月の第3日曜日に年5回、三重大学環境ISO学生会と一緒になって、地域ぐるみで清掃をしています。

ばでおもてなし。門松もお手製です。

——準備期間やほかの組織での活動も含めると、ほぼ一年中、みなさん顔を合わせているのですね。

坂野：小学校の時の関係がそのまま、今につながっているという感じです。正直、会議を開いて議論が白熱することもありますが、ずっとここで暮らしていくわけですから、それぞれの意見を尊重して町屋地区を良くしようという気持ちで共有しているように思います。

——固い結束力で、力を惜まず5年後の設立30周年に向け、町内活性化に取り組んでいます。

インタビュー：中村 元美



「津まつり」で舞い踊る龍※



各自がゴミ袋を手に海岸清掃※



運動会の名物鍋「栗真鍋」※



「町屋会館」に数々の表彰状



左から大河内 忠幸さん、坂野 大徹さん、加藤 和巳さん、大河内 義孝さん

※印の写真は取材先から提供していただきました